

テーマ：「平成 27 年度 新規採用職員へ」(4/28, 5/2 放送分)

ナレーション 今回は、尼崎市役所の新規採用職員へ対する、稲村市長と 3 名の市職員からのメッセージなどをお送りします。本日お届けするのは、その前半部分です。この春、人生の新たな門出を迎えた皆さんも、一緒にお楽しみください。

稲村 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。

平成 27 年度がスタートして、早一ヶ月が経ちました。皆さんの職場や学校で迎えた新しい仲間も、環境に慣れ、落ち着いてきた頃でしょうか。

尼崎市役所でも、この春 102 人の新規採用職員を迎えました。4 月 1 日の辞令交付式、みんなとっても緊張していたんですが、実は、私もすごく緊張してるんですね。でも本当にフレッシュな皆さんから、私も力をもらった気がしました。各職場に配属されてから、少しでも早く市民の皆さんのお役に立てるようにと、毎日必死に頑張っておりますので、まだまだ不慣れな点もあるかもしれませんが、皆さんも大きな心で見てやって欲しいと思います。

さて、月に一度お届けしているこのコーナー。昨年 4 月の放送では、その年の新規採用職員から、わたくし市長に「聞いてみたいこと」という質問ですとか、あと「伝えたいこと」というメッセージを集めまして、それを紹介しながら、私の思いをお伝えしていたんですが、今年は少し趣向を変えまして、市役所の先輩にあたる職員をゲストに招きまして、それぞれの仕事ぶりや、新規採用職員に対するメッセージなど、時間の許す限り伝えていきたいと思っています。

それでは、本日ゲストを紹介していきたいと思います。3 名、職員を今日は招いております。順に紹介いたします。

まずは、尼崎市納税課の名井透さんです。

名井 はい。納税課の名井です。平成 26 年度の採用で、この春 2 年目を迎えました。本日はよろしくお願いいいたします。

稲村 はい、よろしくお願いいいたします。ま、「先輩にあたる職員」といっても 2 年目ということで、まだまだ市役所ではフレッシュな方ですね。今日はよろしくお願いいいたします。

続いて、業務課作業長の小林宏さんです。

小林 はい。業務課の小林です。平成 7 年度に採用され、今年の 3 月末で丸 20 年経ちました。本日はよろしくお願いいいたします。

稲村 はい、よろしくお願いいいたします。私の市役所暦より長いので、先輩です。よろしくお願いいいたします。

そして最後に、防災対策課係長の片瀬元さんです。

片瀬 はい。防災対策課の片瀬です。同じく平成 7 年度の採用です。よろしくお願いいいたします。

稲村 はい、よろしくお願いいいたします。

市役所採用 2 年目、そして 20 年間頑張ってきた、ちょっとやっぱり「先輩」という感じのお二人、ここに勢ぞろいしていただきました。では、さっそく色々話を聞いていきたいと思ひます。

ではまず名井さん、1 年前の辞令交付式、まだ覚えていますか？

名井 はい、鮮明に覚えています。実は私、採用前は民間会社で働いておりました。そこで「入社式」にも参加した経験があるのですが、このような厳かな「辞令交付式」というのは初めてで、「これが役人になることかぁ」と実感しました。式の間はずっと、緊張で汗ばんでいました。

稲村 そうでしたか。あれから 1 年、どうですか。あつという間でしたか？

名井 はい。毎日が無我夢中で、気がつけば 1 年経っていた、という感じです。

稲村 実際のところ、そうですね。

そして 20 年前、平成 7 年 4 月の辞令交付式。これは、同じ年の 1 月に阪神・淡路大震災が発生したすぐ後ということです。小林さん、覚えていますか？

小林 はい。実は、市役所で国勢調査のアルバイトをしながら、1 月末の採用試験の準備をしていたんです。地震発生直後は、とりあえず職場である市政情報センターに駆けつけたのですが、建物自体は大きな被害もなかったので、安心しました。もちろんその日は、仕事にはなりませんでしたが。ただ、周りの被害があまりにも大きかったので、「この様子では、採用試験も中止されてしまうのでは？」と心配になり、人事課に電話で問い合わせしてみたんです。そうしたら「予定通り実施しますよ」とのことです。

稲村 まあ、それはそれでね、受ける方も、採用する役所の方も、ほんとに大変だったんじゃないかなと思うんですけども。じゃあ、その時、無事試験を受けて、採用されたということですね。

片瀬さんも同じ年の入庁ということなんですが、いかがですか？

片瀬 はい。私は当時学生で、大阪にある大学に泊まり込んでいた時に被災しました。神戸市須磨区の自宅が壊滅的な被害を受け、しばらくは帰宅もできないほどでした。4 月になっても自宅が再建されず、大阪の仮住まいから辞令交付式に臨みました。

稲村 そうだったんですか。大変でしたね。その後の出勤も、その大阪の仮住まいから通っていた、ってことですか？

片瀬 はい。6 月になってようやく、自宅通勤ができるようになりました。

稲村 そうですか。平成 7 年度採用という皆さんは、他にも色んなご苦労やドラマや思い出があるんじゃないかなと思うんですが、まさか私たちも、あれからもう一度ああいう「東日本大震災」のような大きな災害があるということも、想像もしてなかったんですが、やはりそういった経験がね、これからまた活かされていくという部分もあるんじゃないかな、と思ったりもします。

では、採用後の仕事ぶりなどについても、もう少し話を聞きたいと思うんですが、名井さん、「納税課」というのがどんな仕事をしている部署なのか、少し教えてもらえますか。

名井 はい。私が所属する「納税課」とは、滞納された税金を徴収するための部署です。金融機関や法務局などで財産調査を行ったり、財産の差押を行ったりしています。電話や窓口などで、市民の皆さんからの問い合わせにお答えするのも、重要な仕事の一つです。

稲村 はい。民間会社でも勤務経験がもうすでにおありということだったんですが、以前も同じような仕事だったんですか？

名井 いえ、以前はメーカーなどで営業をしていました。

これまでの業務と全く異なる「税金の徴収」という仕事に興味を持ち、配属を希望したのは、実は、市役所採用前に参加した「夜カツ！」がきっかけなんです。

稲村 そうでしたか。ちょっとここで皆さんに少し解説したいと思うんですが、この「夜カツ！」というのは、市役所の若手職員を中心とした、自主研修グループのことなんです。本当に和気あいあいと、皆意識高く活動してくれていて、私も一回おじゃましたことがあるのですが、外部からゲストをお招きしたり、ディスカッションしたりと、毎回本当に色々ユニークな企画をやってくれていますよね。

名井さんは、職員になる前に、すでにこの「夜カツ！」に参加していたってことですか？

名井 はい。内定者説明会で「夜カツ！」の存在を知り、参加したのが、ちょうど税金徴収に携る先輩方による、「超”徴税入門”というタイトルの講座でした。

稲村 なるほどなるほど。

名井 はい。税金に関する知識から、仕事上の興味深いエピソードまでお聴きし、すっかり「税金徴収」の“とりこ”になってしまったんです。

稲村 なるほど。それで、この納税関係の仕事をやりたかって希望出していたんですか？

名井 そうですね。

稲村 そうなんですか。そして希望通りに納税課に配属されて1年ということなんですけれども。

名井 はい。採用前は、「税金徴収」というと、外に飛び出して税金をかき集めてくるという仕事がメインだと思っていたのですが、実際のところは全体の7割から8割が、職場での作業でした。国税徴収法や地方税法など、根拠となる法律の勉強が大切だと実感しています。

稲村 はい。やはり私たち、公の立場で税金を徴収するというのは、本当にこの行政の根幹ともいえる業務ですので、責任も重いのですが、やりがいもありますよね。これからもどんどん勉強すべきことがたくさんあると思いますが、何事も前向きに取り組んでいただきたいと思います。

では続いて、小林さんにもお話を伺いたいのですが、小林さんは、採用当時から今までずっと「業務課」の配属だというふうに聞いているんですけれども。

小林 はい、そうです。「業務課」に配属されて21年目を迎えました。

市民の皆さんは、「業務課」と聞いてもピンと来ないかもしれませんが、仕事の内容は、一般家庭ごみの収集などです。職場は、市の南部の大高洲町という所にあります。

稲村 はい。五合橋線を、もう少しまっすぐ南に行ってもらった所なんですけれども。この「ごみ収集」というのも、市民生活にはなくてはならない大事な仕事なんです。震災直後に入庁されたということで、復旧と同時に市の職員としての仕事や生活もスタートしたということで、当時の状況はいかがでしたか？

小林 初日に作業服を支給され、その日のうちには、作業員として現場に出ていました。

稲村 それは大変ですね。

小林 地震から3ヵ月近く経っていたので、さすがに、ごみ収集車が入っていけないような道路はありませんでしたが、阪神高速道路の倒壊の影響で、国道がかなり渋滞し、現場到着までに時間がかかったことを覚えています。

稲村 そうでしたか。その後、震災が落ち着いてからはどうでしたか？ 仕事の方は。

小林 はい。「ごみ収集」と聞けば単純なようですが、「ごみ」だけを見ていては、近づいてくる自転車などの「危険」を察知できません。事故や怪我の無いよう、そして収集もれの無いよう、あらゆる方向に注意を払いながら、業務にあたってきました。

真夏など、体力的にきついこともあります。市民の皆さんから「ご苦労さま」、「ありがと

う」と声をかけていただくと、本当に励みになります。

稲村　そうですか。そして小林さんは、平成 25 年度に作業長に昇任されました。

小林　はい。新築マンションのごみ集積場についての事前協議や、大型ごみの値段設定など、市民からの問い合わせや、毎日の収集業務が滞らないよう、前線の作業部隊のサポートなど、裏方の業務が中心になり、現場に出る機会はめっきり減りました。

稲村　そうですよね。でも現場にいたときにはわからなかった色々な関係や業務、調整があるんだっていうことを、そのあと今どんどん経験されてると思います。また作業長は、そういう現場の作業に当たってる皆さんとの信頼関係が、やっぱりすごく大事だと思いますので、もうぜひとも、力を発揮していただきたいと思います。

ナレーション　いかがでしたか？

次回の後半部分の放送も、どうぞお楽しみに。

以 上